

## 大阪府知事選挙にかかる公開質問状への回答

### 『おとなと子どもの市民宣言』がめざす学校像及び提言事項について

#### 【公開質問状の送付について】

公益社団法人子ども情報研究センターの研究部会の一つである「大阪の子ども施策を考える市民研究部会」は、2年間の研究活動の成果として、本年3月7日、『これからの学校と社会を変えていこう おとなと子どもの市民宣言 ～大阪府知事・市長ダブル選挙、統一地方選挙を前に～』（以下、『市民宣言』）を公表しました。『市民宣言』においては、子どもの権利が尊重される、持続可能な社会を次世代に手渡していくために、これからめざすべき学校像と、その実現のための8つの提言事項を掲げています。

『市民宣言』は、本文にも明記されている通り、「提言の趣旨を理解し、その実現のために誠実に努力する政治」を市民の立場から強く求めるものであることから、3月13日付で、大阪府知事選挙（3月23日告示、4月9日投開票）に立候補予定の候補者に対して、『市民宣言』がめざす学校像および8つの提言事項についての見解をたずねる公開質問状を送付しました。回答の〆切期日は3月23日とし、期日までに回答がない場合は、回答がない事実を公開する旨を伝えました。

吉野敏明候補、稲垣秀哉候補については、ご自身の連絡先が公開されていなかったため、それぞれの所属する政党・政治団体の連絡先に送付しました。

佐藤さやか候補については、所属する政治団体においても有権者からの質問等の受付窓口が明確でないため、質問状の送付を断念せざるを得ませんでした。

#### 【公開質問状への回答について】

公開質問状に対し、回答期日までに、辰巳孝太郎候補、谷口真由美候補、吉村洋文候補からの回答がありました。

吉野敏明候補、稲垣秀哉候補については、回答がありませんでした。

#### 【各候補者からの回答内容について】

以下、質問項目に対する各候補者の回答内容を、候補者名の順（50音順）に掲載しています。

※参考資料：『これからの学校と社会を変えていこう おとなと子どもの市民宣言』

<https://kojoken.jp/research-group/shiminkenkyubukai230307.html>

(QRコードはこちら→)



#### 本件に関するお問い合わせ

公益社団法人子ども情報研究センター事務局

〒552-0001 大阪市港区波除 4-1-37 HRCビル5階

TEL: 06-4708-7087 FAX: 06-4394-8501

E-mail: [info@kojoken.jp](mailto:info@kojoken.jp)

## 質問1 『市民宣言』がめざす学校像について

『市民宣言』において、「わたしたちは、学校をこんな場所に変えていきたい」として、下記の内容が掲げられています。

- 大前提として、どの子も無条件であたりまえに受け入れられ、学び合える場所。
- なにをどんなふうに学ぶか、どんなルールをつくるか、どうすればもっと楽しく過ごせるか、子どもとおとなが話し合って、いっしょにつくっていく場所。
- おとなが正解をもっていて、それを一方的に教えるのではなく、おとなも子どもから意見を聞いて、おたがいに学び合える場所。
- テストの点数が良いか悪いかで、子どもを評価したり、差別したりしない場所。
- しんどいときにひと休みすることが、あたりまえの権利としてみとめられる場所。
- 子どももおとなも、困ったときにはいつでも話を聴いてもらえて、助けてもらえる場所。
- 子どももおとなも、何度でもまちがってよい、失敗してよい場所。
- 一人ひとり違うから、いじめたり、いじめられたりするのではなくて、一人ひとり違うからおもしろい、いっしょにいるのが楽しいと感じられる場所。

ここに示された、これからの学校のめざすべきあり方について、賛否の見解を3つの選択肢から選んでお示しください。また、その理由についてご回答ください。

大いに賛同する    賛同する内容もあればそうでない内容もある    賛同しない

## 回答1 『市民宣言』がめざす学校像への見解

辰巳孝太郎	大いに賛同する 安倍政権による教育基本法の改悪、維新府政のもとでの様々な条例の強行により、学校教育が「人格の完成」をめざす営みから国や財界の「人材育成」に変質してきています。貴団体の『市民宣言』がめざす学校像は、国連子どもの権利条約や日本国憲法の理念に基づく学校像をわかりやすくコンパクトに示しており、大いに賛同します。
谷口真由美	大いに賛同する 現在の学校には、テストの点数さえ上がればよいというような行き過ぎた競争主義、行政のスリム化を図るがための誤った効率主義がはびこり、やせ細りギスギスした環境になっていると考えています。 貴団体の提唱する『おとなと子どもの市民宣言』は、大阪の学校を、一人ひとりの子どもに向き合うことのできる「ふくよか」で「ごきげんさん」な場に変えたい私の思いに合致します。
吉村 洋文	市民宣言の方向性に賛成いたします。 公正性、卓越性、多様性の尊重の3つの理念を柱に、今後もすべての子供の能力を最大限引き出すことができ、かつ、他者を尊重することの大切さをしっかりと次代

	の大阪をになう子どもたちに伝えていきたいと思います。
吉野 敏明	※回答なし
稲垣 秀哉	※回答なし

## 質問2 これからの学校を変えるための8つの提言事項について

『市民宣言』では、先に掲げたこれからのめざすべき学校像の実現のに向けた政策課題として、8項目の提言事項を記しています。各提言事項についての見解をお示してください。

### 提言1 市民としての子どもの声を施策に反映させる仕組みをつくろう について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

### 回答2-① 提言1についての見解

辰巳孝太郎	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>国連子どもの権利条約の内容をわかりやすくまとめた冊子などを作成し、府民や子どもに子どもの権利への理解を広げます。「学校協議会」に保護者・教職員代表が委員として参加し、子どもの意見が積極的に反映されるよう学校管理運営規則を見直します。「高校生宣言」の取り組みを紹介するなど、子どもが学校づくりに主体的に参加できるとりくみを学校関係者の理解と協力をもとにすすめます。</p>
谷口真由美	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>今の教育現場において、テスト漬けの競争至上主義や体罰、理不尽な校則、いじめなどでもっとも苦しんでいるのは子どもたちです。当事者である子どもたちの声を無視して行われて来た教育を転換しなければなりません。</p> <p>形骸化していると言われる児童会や生徒会を活性化するとともに、児童や生徒の代表を「おおさか学校ラウンドテーブル」に招くなどし、子どもたちの声が教育施策に反映できるようにします。</p>
吉村 洋文	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>賛同し、実現に努力します。</p> <p>大阪府子ども総合計画に従い実現を図っていきます。</p>
吉野 敏明	※回答なし
稲垣 秀哉	※回答なし

提言2 おとなも子どもも「ともに学び、ともに育つ」ための条件を整えよう について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-② 提言2についての見解

辰巳孝太郎	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>人種、性別、性的志向、家庭環境などで子どもの学ぶ権利が侵害されないことが重要です。小中学校の給食費の無償化に向けて、市町村の必要経費の2分の1を大阪府として補助します。すべての子どもの高校教育無償化に向けて、授業料補助金の所得制限をなくすとともに、新たに私立高校の入学金補助制度をつくります。</p> <p>「障害者の権利条約」第24条においては、教育の目的を「障害者はその人格、才能、想像力並びに精神的及び身体的能力を可能な最大限度まで発達させること」「障害者が自由な社会に効果的に参加することを可能とすること」等と謳っています。</p> <p>一人ひとりの成長を最大限保障することを前提にして、誰ひとり排除されないインクルーシブ教育が重要です。そのためには、一人ひとりに応じた適切な合理的配慮が提供されなければなりません。</p> <p>それを実現するためには、通常学級の子どもの人数を小中学校、高等学校の全学年を「35人学級」に、小学校1・2年生を「25人学級」にし、加えて複数担任制にするなどして、基礎的環境の整備に努めます。ところが大阪府の教育政策では少人数学級に後ろ向きであり、その上「過度に競争的な教育」がすすめられています。そのため障害のある子どもたちを通常学級から事実上「排除」しているという実態もあります。競争的な教育の是正も喫緊の課題です。</p>
谷口真由美	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>子どもへの教育は、実は、教える側の大人の学びの機会でもあると考えます。</p> <p>「ともに学び、ともに育つ」の観点に立って、子どもたちが抱えるさまざまな問題を大人と子どもがともに悩み、考え、解決策を見出す教育環境を整備します。</p>
吉村 洋文	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>従来より進めてきた「ともに学び、ともに育つ」教育をさらに推進し、支援を必要とする幼児・児童・生徒の増加や多様化に対応した教育環境の整備を進めます。</p>
吉野 敏明	※回答なし
稲垣 秀哉	※回答なし

提言3 テスト漬けの教育をやめよう について

賛同し、実現に努力する 賛同しない どちらともいえない

回答2-③ 提言3についての見解

辰巳孝太郎	賛同し、実現に努力する テスト漬けの教育を改めるために、全国一斉学力調査の市町村別結果を非公表にします。中学校「チャレンジテスト」、小学生「すすくウオッチ」は中止します。
谷口真由美	賛同し、実現に努力する テスト、テストで学習に駆り立てる競争至上主義は、子どもたちから勉強の面白さを知る機会を奪い、子どもたち本人も教師も親御さんも疲弊させるだけで、真の教育とは程遠いものです。 学力アップの効果にさえ疑問がある独自テストは廃止します。そのうえで、少人数学級による学習支援や教職員の負担軽減などにより、学校現場が子どもの学力をより適切に評価し、個別に必要な指導をすることができるよう、すべての子どもたちの教育環境をより充実させる取り組みを進めます。
吉村 洋文	どちらともいえない テストには、子どもの学習のあゆみの到達状況をはかる役割もあります。これは、すべての子どもの能力を最大限引き出す、すなわち卓越性の実現のために必要不可欠です。 なお、テストはそれ自体が目的ではなく、その意味で、テスト漬けの教育は、大阪の目指す教育ではないと考えています。
吉野 敏明	※回答なし
稲垣 秀哉	※回答なし

提言4 教育の目標と内容は、トップダウンではなくボトムアップで について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-④ 提言4についての見解

辰巳孝太郎	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>大阪府教育振興基本計画・事業計画の数値目標を、市町村教育委員会や学校に画一的に押しつけません。子どもの実態や地域の実情を踏まえた学校教育が行われるよう、市町村教育委員会、学校長や教職員の声を真摯に受けとめ、大阪府として支援します。</p>
谷口真由美	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>教育の目標とそれを実現するための内容は、上から目線で現場に押し付けるものではありません。</p> <p>「ふくよか」で「ごきげんさん」な教育現場をつくるために、リアルに子どもたちの反応から感じられる「おおさか教育ラウンドテーブル」を開催するなど、現場の先生方、親御さん、それに、当事者である子どもたちの声を聴きたいと考えています。</p>
吉村 洋文	<p>どちらともいえない</p> <p>大阪府の教育の目標は、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆自らの力や個性を発揮して夢や志を持ち、粘り強く果敢にチャレンジする人づくり 自分に自信を持ち、将来の夢や目標を持って自らの進路にあきらめずに粘り強く未来に向けて歩いていく、チャレンジ精神あふれる態度や、生涯にわたり心身の健康を保ち、たくましく生きる態度をはぐくみます。</li><li>◆大きく変化する社会経済情勢や国際社会の中で、自立して力強く生きる人づくり 知識基盤社会において、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、これらを活用して、自ら学び、論理的に考え、主体的に判断し、行動する態度や、豊かな勤労観や職業観を持ち、様々な分野や立場で社会経済基盤を支え、自立して力強く生きる態度をはぐくみます。 また、我が国と郷土への誇りを持ち、それらがはぐくんできた伝統と文化を尊重するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度をはぐくみます。</li><li>◆自他の生命を尊重し、違いを認め合いながら、自律して社会を支える人づくり 生命と人権を尊重し、自分の大切さと共に他の人の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく豊かな人間性をはぐくむとともに、社会の形成者としての自覚や忍耐力・責任感、規範意識を持ち、自律して社会を支える態度をはぐくみます。 また、自然や美への感性や、自然を尊重する精神、環境を大切にすることをはぐくみます。</li></ul> <p>です。この目標にしたがって、各校が、すべての児童生徒たちの能力を最大限引き出すべく、校長を中心としたチーム学校で、外部の資源とも協力しながら教育の内容を具体的に決定していくものと考えています。</p>

	このやりかたは、トップダウンとボトムアップの双方のよいところをくみあわせたものであり、その意味からどちらでもないと回答いたします。
吉野 敏明	※回答なし
稲垣 秀哉	※回答なし

提言5 子どもも先生もゆとりをもって過ごせる少人数学級を実現しよう について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-⑤ 提言5についての見解

辰巳孝太郎	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>正規教職員を増やし、小中学校、高等学校の全学年を「35人学級」に、小学校 1・2 年生を「25人学級」にします。定員を理由にした府立高校つぶしをやめます。</p>
谷口真由美	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>一人ひとりの子どもに向き合ったきめの細かい教育を行うためには、忙し過ぎる教員の負担軽減が不可欠です。現場の実態に即して、研修の充実等、現場への適切な支援に重きを置いた施策を行なう必要があります。</p> <p>そのためにも、小中学校の35人学級を早期に実現します。</p>
吉村 洋文	<p>どちらともいえない</p> <p>一般的に小人数学級は教師の目が行き届きやすく、一人一人のこどもたちに寄り添った教育が行いやすいとされています。一方で今般の学習指導要領の改訂により、従来の一斉指導型から対話的な学びや個別最適化された能動的な学びへと教育のスタンダードが変化している中、学級の人数が少ない場合は多様な意見を聞き自らの視野を広げたり、少人数では達成できない様なプロジェクト型の学習が困難であることも指摘されています。</p> <p>今後一層グローバル化と価値観の多様化が進み、正解のない時代を生きていく子どもたちが多様な意見に触れ、受容性と主体性をもって自分の人生を生きていくことができるよう、様々な学習のあり方を研究し、実践をしていきます。</p>
吉野 敏明	※回答なし
稲垣 秀哉	※回答なし

提言6 先生には、余計な事務仕事ではなく、子どもとかかわれる時間を について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-⑥ 提言6についての見解

辰巳孝太郎	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>教員の異常な長時間労働が広がるもとの、子どもとかかわる時間を確保するために学校の業務量を減らすことが不可欠です。業務改善に関する「文科省通知」などを生かして、学校関係者の声を真摯に受け止めながら、中学校「チャレンジテスト」、小学生「すくすくウォッチ」の中止、行政研修の簡素化をはじめ業務削減の取り組みをすすめます。</p>
谷口真由美	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>教員に求められる仕事は、日々、子ども達に向き合い育ちをサポートし、どの子どもにも理解できる教育スキルを研さんすることで、煩雑な事務処理ではありません。</p> <p>教員を増員するとともに、スクールカウンセラーの増強や部活動・課外活動への外部人材の登用を進めて「チーム学校」を確立することによって、教員の負担を軽減するとともに、いじめ、不登校をはじめ多様な問題に対処できる体制を築き、教育現場を立て直します。</p>
吉村 洋文	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>全面的に賛成します。</p> <p>スクールソーシャルワーカーをはじめとした、学校外部の資源へのアクセスを充実させるべく、大幅な予算増を任期中に実施しましたが、これを継続していきます。</p> <p>さらに、令和5年度予算にて、入学願書のうけつけや、試験の採点のデジタル化を実現すべく、新規事業を開始します。クラブ顧問業務の負担軽減への第一歩として、複数校での共同クラブ活動の推進も開始します。</p>
吉野 敏明	※回答なし
稲垣 秀哉	※回答なし

提言7 先生がいきいきと働けるために、評価ではなくサポートを について

賛同し、実現に努力する    賛同しない    どちらともいえない

回答2-⑦ 提言7についての見解

辰巳孝太郎	賛同し、実現に努力する 「評価・育成システム」の「評価結果」を賃金に反映させません。「評価・育成システム」を廃止し、教員を励まし、サポートする取り組みをすすめます。
谷口真由美	賛同し、実現に努力する 評価至上主義は、教員を管理・支配するためだけのもので、よりよい教育を目指す優秀な教員の養成に繋がっていません。また、序列化と過度な競争のなかで子どもも教職員も疲弊している現状の打開と、すべての子どもたちにゆたかな学びを保障する教育の実現をめざさなければなりません。 現場の教員の意見も聞きながら、研修制度の充実など教育現場の支援体制を整備します。
吉村 洋文	どちらともいえない 教師のサポートが必要であることは間違いないものの、教師の質の確保のためには評価制度は必須であると考えます。評価制度は子どもの教育環境の向上に努力し、成果をあげている教員を奨励し、そうでない教員には努力を促していくために欠かせないものであると考えています。提言内容が「評価ではなくサポートを」ではなく「評価だけでなくサポートも」であれば賛同し、実現に努力していきます。
吉野 敏明	※回答なし
稲垣 秀哉	※回答なし

提言8 学校がより居心地のよい場となるための試みを応援しよう について

賛同し、実現に努力する 賛同しない どちらともいえない

回答2-⑧ 提言8についての見解

辰巳孝太郎	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>子どもや教員にとって学校が居心地のよい場所となるためには、教室や体育館へのエアコン設置、老朽校舎やトイレの改修など、快適な学習環境を整備することが不可欠です。学校関係者の声に耳を傾け、必要な予算を確保して学習環境を整備する施策を計画的にすすめます。</p>
谷口真由美	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>かつての学校は、下校時間が来ても家に帰りたくない、そんな場所だったはずで。それが、いつの間にか、全国を上回る不登校者を大阪の教育現場は生み出してしまいました。貧困や格差、過度の競争主義など様々な社会課題のしわ寄せが、子どもや学校に押し寄せていると考えます。</p> <p>子どもたちが皆、学校へ行くのを心待ちにするような学校づくりが必要です。</p> <p>また、子どもたちが地域ともに学び、育つ開かれた学校教育の実現のためには、教育環境の安全確保に留意しつつ、学校施設の開放をさらに拡充し、地域を支える大人たちとの交流の場を広げる必要があります。</p> <p>一部の先進的な取り組みを踏まえ、閉鎖的でギスギスした教育を改め「ごきげんさんな」学校を取り戻すための施策を進めます。</p>
吉村 洋文	<p>賛同し、実現に努力する</p> <p>学校が子どもにとってより居心地の良い場になることは非常に重要であり、そのための現場レベルの取組みに関しては極力バックアップしていきたいと考えています。</p>
吉野 敏明	※回答なし
稲垣 秀哉	※回答なし

以上